

平成27年年度都市計画実習   スマートキャンパス班   中間発表レジュメ   2015年5月15日

目指せ！グローバルスマートキャンパス

班員：   久保田彩加   川西勇輔   中島衣織   佐藤優希   野口紗英子   茂木雅春   掛神有希奈

指導教員：                      鈴木勉                      担当TA： 安達修平

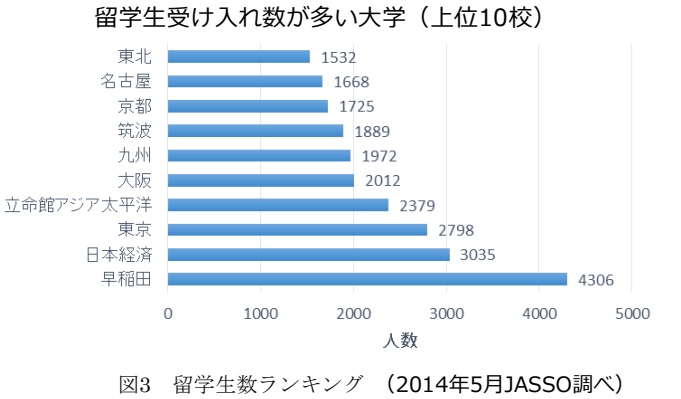
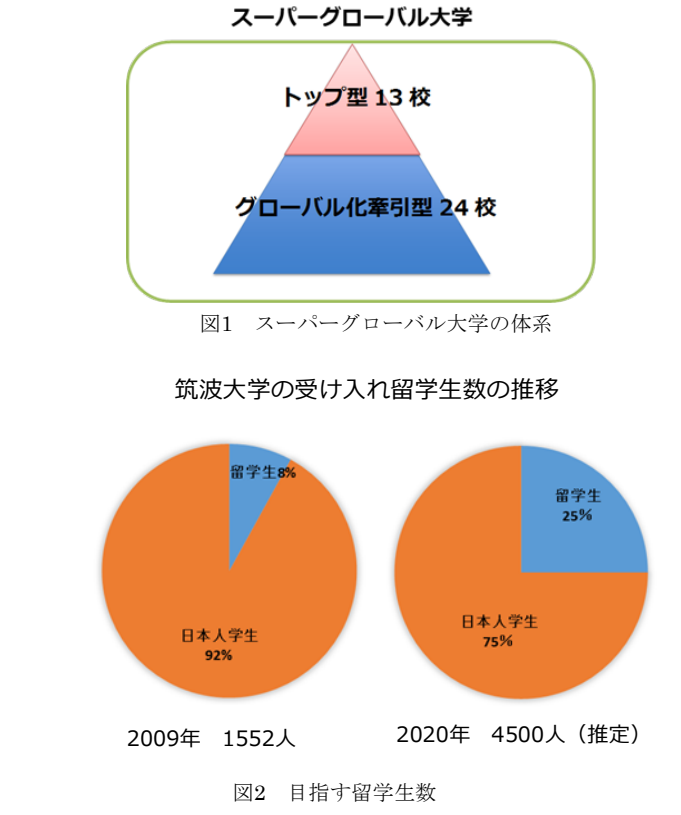
1. 背景

(1) 国際化の流れ

情報伝達や輸送システム技術の発達により、多くの情報・ヒト・モノ・文化が国家の枠を越えて地球規模で広がるようになった。国際間の交流が進むにつれ、将来を担う若い世代は異文化同士の摩擦や習慣が違うといった厳しい環境の中で、力を発揮することが求められるようになっていく事が考えられるだろう。このように移りゆく時代でどのように生きていくのか、どのように世界とわたりあっていくのか、問題を発見し、それを解決していくことが今の日本の課題だ。そこで文部科学省が重要視したのが、大学の国際競争力を高めることである。

(2) 筑波大学のグローバル化

筑波大学は2014年に「スーパーグローバル大学」として選ばれた。スーパーグローバル大学とは、文部科学省が徹底した国際化を進め、世界レベルの教育研究を行う大学を重点支援するために創設した事業である。筑波大学は世界大学ランキングのトップ100を狙う実力がある、世界レベルの研究を行う大学として選ばれる「トップ型」として全国13校の中の1校として選ばれた。また、筑波大学は2009年に全体学生数の約8％であった留学生を2020年には25%まで引き上げる目標を定めている。（最新の2014年の調査では1889人。）つまり4人に1人は留学生を受け入れるということである。周りに留学生が今よりも更に増えるという未来がすぐそこまでやってきている。



(3) グローバル化の現実

私たちが考える真のグローバル化は「人種のサラダボウル」。すなわち国籍を問わず活発に交流が行われている状況である。大学側はグローバルキャンパスへ向けた様々な取り組みを行っているが、実際のキャンパスをみると留学生同士、日本人同士で固まってしまう、交流の機会が持たれていないのが現実である。そこで留学生の生活や留学生と日本人の交流に焦点を当てて調査することにした。

2. 目的

「グローバルスマートキャンパスを実現するために必要要素として空間と制度に着目し、検証すること」を目的とした。具体的に述べると空間面では食堂や学生宿舎、制度に関しては教育プログラムやサークル活動等のコミュニティに焦点を当てた。

3. プレ調査

(1) ウェブ調査

① 筑波大学のグローバル化に向けた取り組み

筑波大学ではグローバル化に向けて様々な事業が行われており、その中でも特に「チューター制度」、「グローバルレジデンス整備事業」、「Cosmos Cafe」について取り上げる。

チューター制度とは、希望する留学生へと大学がチューターを斡旋し、学習・研究指導や日本語指導、日常生活の手伝いなど、留学生へのサポートをする制度で、日本語・日本文化学類の学生が特に多く参加している。日本に来て間もない留学生を大学側が安心できるかたちで支援しつつ、日本人学生は留学生との会話経験を積むことができる、国際的なコミュニケーションのひとつのかたちといえる。チューターには市役所や入国管理局(水戸、東京)への行き方や指導教員との人間関係、あるいはアルバイト先のトラブルなど、多様なかたちでのサポートが期待されている。

グローバルレジデンス整備事業とは、筑波大学平砂学生宿舎内の敷地へ500人を収容するインターナショナルハウスとその交流施設であるコミュニティプラザを新設

し、一の矢学生宿舎6・8号棟、31～35号棟、38号棟をショートステイハウスとして改修する事業である。特に前者は日本人学生と留学生によるシェアハウス型施設であり、その相互交流を図ってゆくという意味合いで国際性の日常化、日本にいながら異文化を体験できる住環境を期待されている。1ユニット5人で構成され、現時点においては1ユニットの面積は90㎡、一個室の面積は約9㎡を予定している。インターナショナルハウスのレジデンスAは2017年から、レジデンスBは2018年から、また、ショートステイハウスは2016年から運営が開始されるという。

Cosmos Caféとは、筑波大学公式団体により毎週火曜日17:30から19:00までスチューデントコモンズ(1A203)で開催されている多国語環境スペースであり、留学生同士のコミュニケーションの場としても留学生と日本人学生の数少ない接点となる場としても機能している。主な特徴としては英語だけでなく日本語や、どの国のことばでもいいという親しみやすさと、いつでも出入り自由という入りやすさがあげられる。また、Cosmos Chatと呼ばれる英語での交流の場が毎週水曜日11:40から12:15までスチューデントコモンズで開催されている。

② 他大学のグローバル化に向けた取り組み

ここではグローバル化に向けた他大学の取り組みを先行研究として挙げていく。

東京外国語大では、スーパーグローバル大学創生支援の一環として、2023年度を目安に、外国語による授業科目割合を17.1%から40.6%まで向上させることを目標としている。また、外国語のみで卒業できるコースをあえて設けないことで、日本人学生と留学生が当たり前にコミュニケーションできるような開かれた場としてのキャンパスを目指しているという。同じく東京外国語大学では、筑波大学のグローバルレジデンス整備事業の先駆けとなる事例である国際交流会館がキャンパス内で運営されている。特にもっとも新しい三号館は2013年4月から運営され始めたばかりであり、日本人学生50人、留学生80人を募集、管理費含め月額46000円、それぞれユニットバスとトイレのついた独立した個室に加え、テレビラウンジや共用キッチン、音楽室、レクリエーションルームなどが備え付けられており、充実した住居と国際性の日常化を両立させている。

早稲田大学では、大学の国際コミュニティセンターの主導によってヴァリエーションに富んだ企画を高頻度で行っている。特定の国の食や文化を紹介するカントリーフェスタや、多国語環境スペースを提供し、ドリンク片手に国の隔てなくおしゃべりを交わすテーマカフェ、日本人学生と留学生でペアをつくり、ゲストスピーカーとして小中学校、高校で母国や母国語の紹介を行うアウトリーチプログラム、日本人学生と留学生が母国語を既定の時間で交換し合い、それぞれの国の文化やニュースについて話し合うランゲージエクスチェンジなど、そのプログラムはつねに新鮮でありつつも異文化コミュニケーションを促すものとなっている。

(2) 現地調査

① グローバルコモンズ

場所	グローバルコモンズ
日時	2015 年 5 月 1 日 (金) 15:00～

グローバルコモンズは一学書籍部と隣接した場所に位置している。留学経験者によるポスターや留学案内資料、掲示板など留学についての情報提供を始めとし、留学生との交流イベントの告知・開催、留学・国際交流関連の相談窓口、海外旅行向け情報誌やTOEIC/TOEFLテキストの

貸し出しなど施設としての機能面で優れているだけでなく、机や椅子が設置され、休憩や談話のためのスペースとしても利用できるようになっている。当日は講義時間中ということもあったためか他の来訪者は見かけることができなかったものの、複数台のタブレットや大きな液晶など設備面から見ても、また目につきやすさ、窓から見下ろされる景観など立地から見ても優れた施設だと思われる。

② Café MARHABAN

場所	Café MARHABAN
日時	2015 年 5 月 1 日 (金) 15:00～

Café MARHABANは二学食堂の裏手に位置している。筑波大学福利厚生委員会の管轄にある食堂で、現在学内で唯一ハラル食を提供している場所である。当日は昼休みの最中であり店内は多くの客でにぎわっていたが、日本人学生のグループは一組のみで、他は髪をヒジャブ(スカーフのような布)で覆った女性の集団など留学生が多かった。メニューはチキンオーバーライス(ターメリックライスにチキンとサラダをのせたもの)やチキンマリナラ(チキンステーキにアンチョビとトマトソースをかけたもの)をはじめとする4種のメニューと本日のカレー、本日のランチ、計6種から構成されていて、店の前には「100%HALAL Vegetarian Friendly」と記された看板が立てられていた。ただ、店の位置は少々奥まっっており、日本人学生はCafé MARHABAN付近を通り過ぎるばかりで立ち寄る人はあまりいないようだった。

➡

上記2施設の日本人学生による利用は少ないのではないかと？

(3) ヒアリング調査

① 留学生センターへのヒアリング

場所	留学生センター
日時	2015 年 4 月 28 日 (火) 15:00～
対象者	留学生センター 酒井さん

留学生センターは、非正規生のための支援室のような役割を果たしている。ここで、非正規生に対し正規生とは、一般学生と同様に入学する学生を指す。また、留学生に対し英語でeメールを中心とした情報提供も行っており、場合によってはFacebookで行う場合もある。

背景にもあるように、現在筑波大学では留学生を増やす取り組みがなされているが、平成35年までに4人に1人が留学生になった場合、従来のサポートを留学生に対して行うバックアップ体制をとるのは難しいのではないかと考えている。将来的に留学生センターをなくし、各支援室に国際業務に対応するスタッフを配置する「エリアコモンズ」で留学生への対応を行う。また、チューター制度の必要性がなくなり、留学生が自分で生きることのできる環境が本来のグローバル化なのではないかと考えている。

➡

日本人学生と留学生が同様の学校生活を送ることを目指す

## ② 留学生へのヒアリング

場所	3C403
日時	2015 年 4 月 28 日 (火) 16:30～
対象者	オム ソンヨンさん(韓国人留学生)、 アン チェンガンさん(中国人留学生)

留学生にヒアリングを行ったところ、日本での困ったことについて、「お昼は弁当を買うことが多い。食堂の使い方が難しく、メニューが英語表記でないためどのような料理なのか分からない。」という意見が挙がった。また、「留学生の受ける授業には偏りがある。皆でディスカッションをしながら行う授業を増やしてほしい。日本人学生が留学生とともに受ける授業があってもよいのではないか。」「宿舎に1人で住むのは寂しい。」という意見も見られた。

→ 他大学のような取り組みが筑波大学での可能なのでは？しかし更なる調査が必要

## (4) アンケート調査

筑波大学生(日本人学生)49人に対し、グローバル化に関する調査を行った。対象の学生の所属とアンケートの結果は以下の通りである。

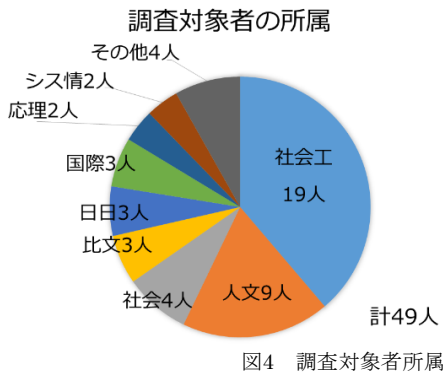


図4 調査対象者所属

## ① スーパーグローバル大学選定の認知

筑波大学がスーパーグローバル大学に指定されたことを知っていたかという質問に対し、以下の結果を得た。

あなたは筑波大学がスーパーグローバル大学に指定されたことを知っていましたか

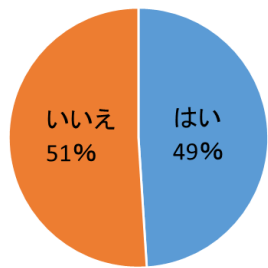


図5 スーパーグローバル大学認知度

→ 約5割の学生がスーパーグローバル大学認定を認知

## ② 海外留学への興味

海外に留学することに興味があるかという質問をし、以下の結果を得た。

あなたは海外で留学することに興味がありますか

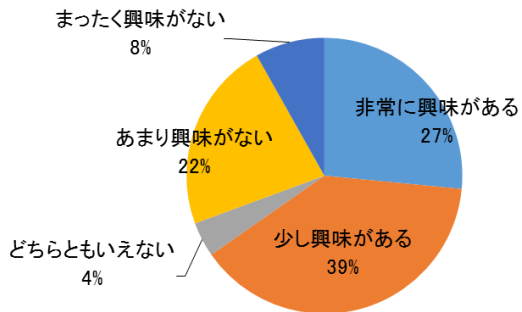


図6 海外留学への興味

→ 約65%の学生が海外留学に興味あり

## ③ グローバルレジデンス整備事業の認知

グローバルレジデンスという事業がどのようなものか知っているかという質問に対し、以下の結果を得た。

グローバルレジデンスという事業がどのようなものか知っていますか

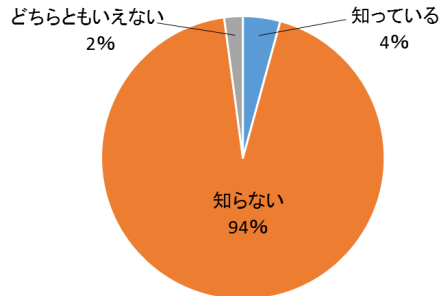


図7 グローバルレジデンス整備事業認知度

→ 9割以上の学生がグローバルレジデンス整備事業を認知していない

## ④ 大学施設の認知と利用

留学生センター、グローバルcommons、スチューデントプラザ、学生支援室、カフェ・マルハバンのうち、知っているものに○を付けてもらい、以下の結果を得た。

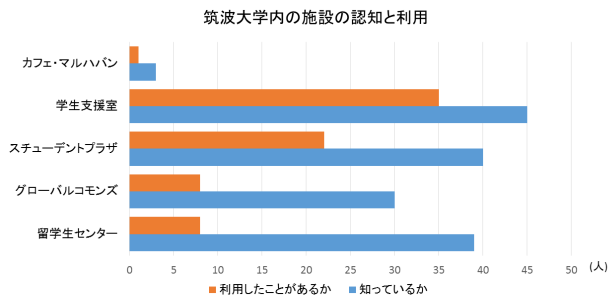


図8 大学施設の認知と利用

→ 留学生センター、グローバルcommons  
…認知度は高いが、利用者は少ない施設  
カフェ・マルハバン  
…認知度が低く、利用者も少ない施設

## ⑤ サークル等の活動の認知と参加

おもちゃクラブ、APIC、TISA、アムネスティ・インターナショナル、国際問題研究会、JICAのうち、知っているものに○を付けてもらい、以下の結果を得た。

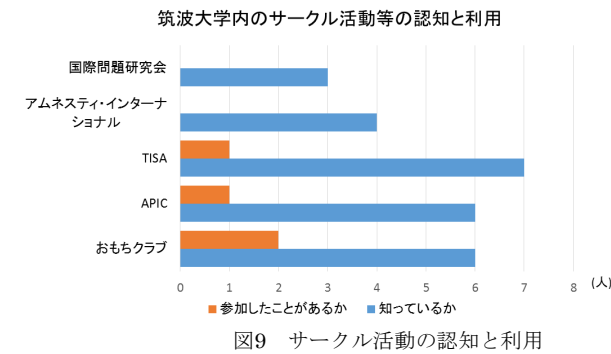


図9 サークル活動の認知と利用

→ 知っている人が多いサークルでも、実際に参加している人は少ない

## 4. 仮説

空間と制度のさらなる工夫により、国際性が日常化され、グローバルスマートキャンパスになるのではないかな。

## 5. 検証課題

- (1) 外国語によるコミュニケーションを必須とする抗議を必修化あるいはその講義数の増加
- (2) 食堂での外国語メニューの提示と、外国の食事、特にハラール食の提供
- (3) 宿舎の各フロアでの日本人学生と留学生の交流促進
- (4) 学内留学をコンセプトとした新しいかたちのコミュニティの提案

## 6. 今後の方針

学外調査では、留学生数が多く、学内での国際交流への取り組みが行われている国際基督教大学、東京外国語大学を訪れ、どのようにして交流が図られているか現地訪問、ヒアリング調査を行い、筑波大学と比較する(5月29日実施予定)。学内調査では検証仮説に挙げた4つの項目ごとに細かく検証する。

(1)に関しては、開設科目一覧をもとに現在の授業の中に外国語を用いたコミュニケーションを図る授業があるかを把握し、実際の様子を見学、受講者へのヒアリング調査を行うことで需要があるかどうかを検証する。

(2)に関しては、メニューの外国語表記が進んだ食堂を実際に利用している日本人学生と留学生にヒアリング調査を行い、どのような理由で選んだのか、どのような利用をしているのか調査をすることで各所に存在する食堂にも応用可能かどうかを検証する。

(3)に関しては、インターナショナルハウスの入居希望が少ない原因を明らかにし、利用促進に向けてどのような取り組みが必要なのかをアンケート調査をもとに検証

する。また、既存の学生宿舎を利用する留学生がどの棟で暮らしているのか、どのような行動をしているか、日本人との会話頻度、時間といったデータをヒアリング調査から得る。これにより日本人との交流がどのように行われているか現状を把握する。

(4)に関しては、現在、筑波大学で活動しているコスモスカフェやおもちゃクラブ、中央アジアカフェ等の異文化交流コミュニティにヒアリング調査を行うことで、人数や内容、場所、頻度といった現状を把握する。異文化交流コミュニティの活動の総体を俯瞰し、その特徴をまとめ、分析することで、その人にとって最も望ましい交流の場へと導けるようにすると同時に、日本人学生と留学生の行動を調査したデータと併用し、ひとつの実践としてコミュニティをかたちづくれるような空間のありようを考えていく。

## 7. 参考文献

筑波大学 受け入れ留学生数の推移

(<http://www.tsukuba.ac.jp/students/campus/179/1.html>)

Global ICU

(<http://www.icu.ac.jp/globalicu/the-goal-of-sgu-gg-j/>)

Waswda Next 125

(<http://www.waseda.jp/keiei/next125/about/global/index.html>)

筑波大学グローバルレジデンス整備事業について  
(<http://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/gpfi20141126-siryol.pdf>)

ビジネスピープル無料イラスト素材

(<http://business-peoples.com/index.html>)

日本学生支援機構 外国人留学生在籍状況調査

([http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/ic\\_hiran.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/ic_hiran.html))

日本経済新聞

([http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG26H03\\_W4A920C1CR0000/](http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG26H03_W4A920C1CR0000/))

平成24年度学生生活実態調査

(<https://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/h24undergrad.pdf>)

筑波大学HP

(<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/overseas.html>)

グローバルcommons

(<http://g-commons.global.tsukuba.ac.jp/news/news/about/>)